

救 急 部

1 構 成 員

	平成20年3月31日現在
教授	1人
准教授	1人
講師（うち病院籍）	1人（ 1人）
助教（うち病院籍）	3人（ 2人）
助手（うち病院籍）	0人（ 0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	2人
研修医	2人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（ 0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	11人

2 教員の異動状況

青木 克憲（教授）（H14. 11. 16.～現職）
 吉野 篤人（准教授）（H17. 6. 1.～H19. 3. 31助教授；H19. 4. 1～現職）
 佐藤 潤（講師）（H19. 1. 1.～H20. 3. 31.）
 安田日出夫（助教）（H18. 10. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～H19. 12. 15助教）
 鈴木 洋行（助教）（H19. 12. 16.～現職）
 間遠 文貴（助教）（H16. 9. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～H20. 3. 31助教）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成19年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	12.082
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）

そのインパクトファクターの合計	0
-----------------	---

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Matoh F, Satoh H, Shiraki K, Saitoh T, Urushida T, Katoh H, Takehara Y, Sakahara H, Hayashi H: Usefulness of delayed enhancement magnetic resonance imaging to differentiate dilated phase of hypertrophic cardiomyopathy and dilated cardiomyopathy. Journal of Cardiac Failure 13: 372-379, 2007.

インパクトファクターの小計 [3.067]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Hasegawa H, Inui N, Fujisawa T, Sato J, Nakamura H, Watanabe H, Suda T, Chida K: Once-daily inhaled glucocorticosteroid administration in controlled asthma patients. Pulm Pharmacol Ther, In press, 2008 (Available online 29 Mar. 2008)
2. Miwa S, Suda T, Morita S, Inui N, Sato J, Chida K: Clinical analysis of sarcoidosis presenting with heterochronic cardiac involvement. Respirology, 12(5), 744-8, 2007.
3. Naito T, Suda T, Suzuki K, Nakamura Y, Inui N, Sato J, Chida K, Nakamura H: Lung dendritic cells have a potent capability to induce production of immunoglobulin A. Am J Respir Cell Mol Biol, 38(2), 161-7, 2008.

インパクトファクターの小計 [9.015]

4 特許等の出願状況

	平成19年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成19年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 (0万円)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成19年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成19年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. BLS啓発活動

BLS（Basic Life Support，一次救命処置）は，日常生活の中で突然生じる健康危機に市民が即座に判断し，とるべき行動をまとめたプログラムである。われわれは，浜松医大医学部附属病院の医療従事者に限らず，浜松市内，あるいは，静岡県内のすべての医療従事者を対象として，BLS啓発活動を進めている。また，医療従事者のみならず，学童生徒，中高生，大学生，一般市民にもその啓発活動に努力している。

2. 救急初療技術の標準化に関する啓発活動

ACLS（Advanced Cardiovascular Life Support），ICLS（Immediate Cardiovascular Life Support），JPTEC（Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care），JATEC（Japan Advanced Trauma Evaluation and Care）で構成される救急初療技術の標準化に関する啓発活動を静岡県内で精力的に進めている。

3. 東海地震における市民との医療連携

来るべき東海地震に備えて、公的救助を期待できない発災直後（phase0）における市民との医療連携のあり方を追求している。浜松市各自治会自主防災隊員の現場救護，トリアージ，搬送手段の啓蒙活動を訓練を通じて実践している。また，静岡県西部地方の磐田市，御前崎市，浜松市天竜区の医療従事者を対象として，医療救護所におけるトリアージおよびトリアージ以後の初療に関する訓練と技術の標準化を追求している。

4. 救急医療体制の評価

病院前医療における救命リレーを適確に進めるために，救急隊員のメディカルコントロール，搬送症例の事後検証，浜松方式輪番制病院群における救命救急センターの役割，浜松市・浜北市全救急隊員による浜松医科大学救急部門の全体的評価などの検討を行っている。全国2番目の面積となった新浜松市の広域救急医療体制のあり方が今後の課題である。

5. 新臨床研修制度における研修医の評価と救急部スタッフに対する逆評価

新臨床研修制度における58名の研修医について，救急医療研修の到達度評価，救急部スタッフによる研修医の評価とフィードバック，研修医による救急部スタッフの逆評価を行っている。救急医療の現場は教育的な環境であり，教員の教育技法を高める必要がある。分かりやすい指導，確実に技術を習得できる指導，タイミングを見て適切な形成的な評価ができることが必須である。診察，診断，治療の各プロセスにおいて教育効果を逃さない優れた指導医の養成プログラムを検討している。